



え も の が た り こ じ き
絵物語古事記

とみやすよう こ
富安陽子作

やまむらこう じ
山村浩二絵

かいせいしゃ
偕成社

大^{おお}むかし、イザナキ、イザナミの夫婦^{ふうふ}の神^{かみ}さまが、この
国^{くに}の島々^{しまじま}や神々^{かみがみ}をつぎつぎに生^うみおとした。ところがイザ
ナミは、火^ひの神^{かみ}を生^うんでなくなってしまったんだ。イザナ
キは、死^しんだ妻^{つま}が恋^{こい}しくなってしまった。そこで、暗^{くら}い地^ち
の底^{そこ}にある死者^{ししや}の国^{くに}まであいについてみると、イザナミは
かわりはてた姿^{すがた}になっていた。
ヤマトノオロチ、稲羽^{いなば}の白^{しろ}うさぎ
などよく知^しられた神話^{しんわ}が、一^{ひと}つにつ
ながった絵物語^{えものがたり}として楽^{たの}しめる。
天地^{てんち}のはじまりからなる日本最古^{にほんさいこ}
の物語^{ものがたり}を話^{はな}してあげよう。

